



# 化石館だより

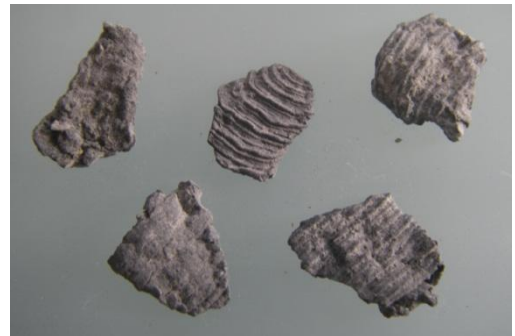
## コラム

## 「金生山自然講座」を実施して

金生山化石館では前期と後期にそれぞれ3回の「金生山自然講座」を開催しています。講座の内容は毎回異なり、フズリナ化石のついた石灰岩を磨くペーパーウエイト作りやアクセサリ作り、アンモナイトや三葉虫のレプリカ作り、アンモナイトとオウムガイの断面観察、陸貝の採集と観察、化石の採集と観察など多彩です。

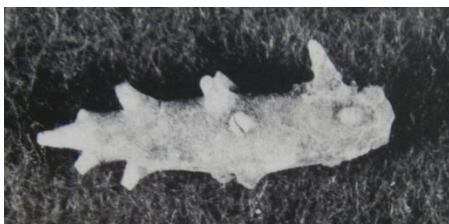
先日は前期の自然講座で、「顕微鏡で小さな化石を見つけよう」を実施しました。金生山は大型の貝化石が有名ですが、小さな化石もたくさん見つかります。この講座は、こうした小さな化石にも気付いてもらいたいという願いを込めて企画したものです。小学生の子供たちには難しい操作が必要なので、少々心配しながら実施しましたが、約1時間30分の間、休憩もせず夢中になって顕微鏡を覗きこんでいました。

この講座で用いる資料は、金生山で採集された風化の進んだ石灰泥です。この石灰泥を水で洗い、細かな粘土を洗い流した後に残る砂礫には、巻貝や二枚貝の断片、フズリナやミッチアという石灰藻、ウニの棘やウミユリの骨片、貝形虫や有孔虫など実に様々な化石が含まれているのです。濡れた砂礫を乾燥させ、篩を用いて粒度をそろえると化石取り出し用の資料が出来ます。



上：押しつぶされた巻貝  
下：巻貝の芯

粒度の大きな資料からは、巻貝の破片やフズリナなどの化石を肉眼で識別することができます。写真を用いて化石の種類と形を説明し、具体的なイメージを描いていただいてから資料を配布してピンセットで取り出してもらいます。

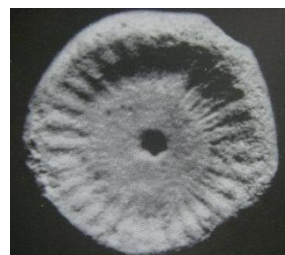


ウニの棘

次は顕微鏡の捜査を説明した後、粒度の小さな資料を配布します。資料は、ウニの棘やウミユリ、巻貝、魚の歯などに分かれていますので、自分の好みに合った資料を選んで化石を取り出します。こちらの資料は小さく脆いので、ピンセットで挟むことはできません。そこで面相筆を水で濡らして用います。余分な水を除

きながら穂先を整え、その穂先にくっつけるようにして取り出すのです。顕微鏡下で穂先に化石をくっつける操作は慣れないと難しいのですが、結構うまく操作できていました。

ウミユリの骨片 →



微化石を保存するには専用のケースが必要です。市販品もありますが、私たちの講座では手作りして用いています。「のりパネ」という糊付きのスチロールボードを3cmと5cmの大きさに切り取り、中心に円切りカッターで径1.5cmの穴を開けます。ケースの裏面には両面テープを貼り付けたボール紙をくっつけます。ボール紙は化石の色別に、白と黒の二種類を準備しておくとう便利です。穴の部分は両面テープの糊がむき出しになりますから、筆先の微化石を貼り付けることができます。最後にケースの表に透明のシートを貼り付ければ微化石の標本が出来上がります。

この講座では、海水浴場で採集してきた微小な貝殻を多く含む砂も準備しました。海水浴場の砂を顕微鏡で眺めた人はほとんどいないと思いますが、一度眺めてみてください。小さな二枚貝や巻貝、ウニの棘の破片、有孔虫など実にたくさんの生物片が入っています。しかも、カラフルでとても綺麗なのです。大きくて見栄えのするものに目が行くのはごく自然ですが、普段気付かない小さな生物の世界もあることや、小さな生物たちも実に多種多様で興味深い存在であることに気づいていただけたらと願っています。

(文責：高木洋一)

\*\*\*\*\*

## お知らせ

前期企画展

### 「巨大二枚貝シカマイア」

～ 金生山の二枚貝化石たち ～

開催中!

金生山で発見された殻長1mを超える巨大な二枚貝シカマイアは古生代最大の二枚貝とされています。その模式種であるシカマイア・アカサカエンシスの復元模型と多くの実物標本、また金生山から発見された全種類の二枚貝化石を展示しています。

期間： 5月3日(水)～9月11日(月)

入館料： 一般100円 高校生以下無料

開館： 火曜日・祝日の翌日



問い合わせ： 大垣市金生山化石館 電話 (0584) 71-0950 (ファックスも同じ)

Email [kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:kasekikan@vanilla.ocn.ne.jp)